



公立芽室病院 第67号

だより

ホームページアドレス
http://memuro.com
又は芽室町ホームページのトップページから
アクセスできます。



中1、高3のみなさん、 MRワクチンを 忘れずに!

小児科医長 住谷 晋

平成18年から麻疹・風疹混合ワクチン(MRワクチン)が始まり、2回接種(1回目は月齢12~23ヶ月、2回目は小学校入学前の1年間)となりました。ところが今の小学3年生以上の皆さんが対象にならないため、今年の4月から中学1年生と高校3年生も公費での接種の対象となりました。これは、5年間の時限措置ですので、今の小学2年生以下のこどもさんは2回で終了です。

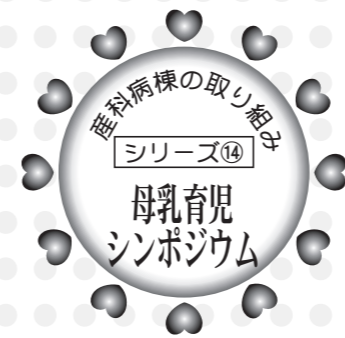
昨年、大学生や高校生など10代後半から20代を中心に麻疹が流行しました。麻疹ワクチンを受けていなかった人もいましたが、小さい頃にワクチンを受けていた人もかなりいたようです。この理由は以前にもここで紹介したことがありますが(2006年10月のすまいる)、1回の接種ではうまく免疫がつかない率が5~10%あること、弱毒ワクチンのため、自然罹患に比べて抗体のつきが弱く、麻疹の患者さんとの接触がなくなると免疫が下がる一方になり発病阻止できないレベルまで低下することが考えられます。では、自然に麻疹にかかり、一生継続する強固な免疫を獲得するほうがいいのでしょうか?麻疹に限ってはそんなことはありません。麻疹にかかってしまう人が増えれば、多くの犠牲者が発生します。ワクチンのない時代は、「麻疹は命定め」という呼び名があったように幼い命がたくさん奪われていたのです。また、SSPE(亜急性硬化性全脳炎)という麻疹ウイルスによる致死性の病気がワクチンの導入により減少しま

した。やはり、麻疹はワクチンをうまく使って予防すべき病気です。

風疹については一番問題なのは、先天性風疹症候群です。妊婦さんがかかると、生まれてくる赤ちゃんに障害が起こってしまうもので、妊娠前に防御抗体をつけておくことが大事なのと、それ以上に流行を抑えてしまうことが大切です。そのため、麻疹と風疹のワクチンを2回受けることが必要になります。

麻疹にかかったことがある方は免疫がありますので、MRワクチンを受けても結構ですが風疹ワクチンのみで大丈夫です。また風疹にかかったことのある方も麻疹ワクチンのみで大丈夫ですが、風疹の場合、症状が軽いため実際には風疹でなかった場合もありますので、MRワクチン接種を勧めます。

芽室町では8月末の時点でMRワクチン接種の割合は、中学1年生では36%、高校3年生では56%です。忘れないうちに受けてください。



母乳育児シンポジウムとは、1992年、世界母乳の日(8月1日)の制定を記念して、全国各地より母乳育児の実践に熱心な産科医・小児科医が集まり、「母乳をすすめるための産科医と小児科医の集い」が開かれ、母乳育児を推進していくための方策などが熱心に討論されました。以来「集い」の参加希望者は、年々増加して、「集い」は「会」へと、さらに「日本母乳の会」へと発展的に改名していきました。会員は医師だけでなく、助産師・看護師・保健師、母親達など母乳育児を推進し、支援していきたいと願う仲間が増え続けています。

毎年8月の世界母乳週間に開催する母乳育児シンポジウムは、毎回全国から医師・教諭・助産師・保健師・看護師、育児サークルの母など1,200名が参加して母乳育児と母乳支援が、人・施設・地域・世代を「繋ぐもの」となることを

願い開催されます。

今年も当院助産師は、暑い大阪で熱い思いの伝わる第17回母乳育児シンポジウムに参加してきました。

「BFH認定施設のある地域」

WHO、ユニセフ認定の「赤ちゃんにやさしい病院」Baby Friendly Hospitalが、2008年度10施設が新たに認定され、全国で54施設となりました。

当院も2006年度、「赤ちゃんにやさしい病院」に認定されています。北海道では、当院の他、旭川医大病院、北見日赤病院の3施設が認定病院です。

WHO・ユニセフ認定
(2008年8月現在)
赤ちゃんにやさしい病院
BFH:Baby Friendly Hospital

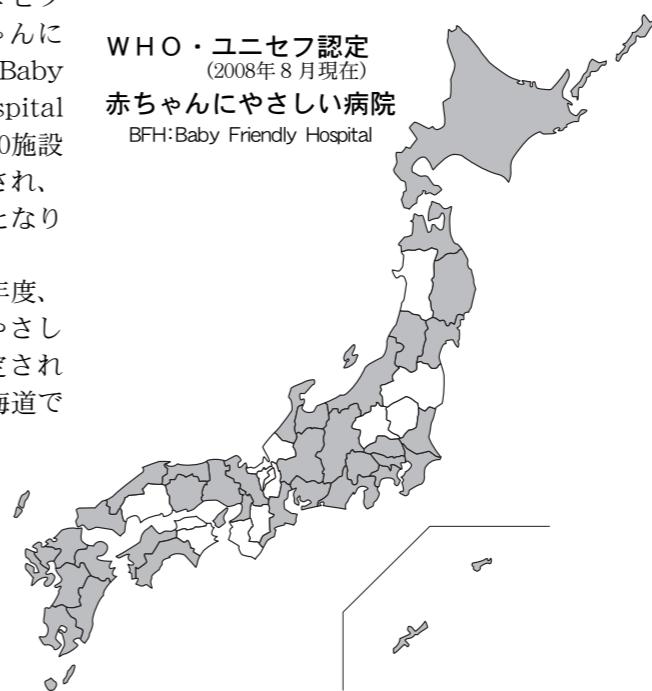


図 空欄部分が、まだ認定施設のない地域です。

「母乳育児と その支援」

近年、家庭、学校、地域社会などで、親子、子ども同士や大人間でのたくさんの悲しい出来事、事件報道に出会います。虐待、暴力、殺人など崩壊した人間関係の報道に接するたび、「どうしてそのようなことになってしまったのか」心が痛みます。人と人とのコミュニケーションが不能になったり、人との関係の破綻が見られるようになりしました。

人と人との基本的信頼関係が築かれ成立するには、周産期、乳児期早期から始める母子関係作りが大切であり、母乳育児とその支援を積極的に推進することが重要であると考えています。

講演会のお知らせ

と き 10月25日(土) 14:00~
ところ 芽室町中央公民館2階講堂
(芽室町東3条3丁目)
テーマ 「お母さんと赤ちゃんは一緒にいっばん」
講師 林 時伸氏
(旭川医科大学病院周産母子センター副部長)
*参加無料です(申し込み不要)。
多数の方々の参加をお待ちしています。

助産師の独り言

・安心してお産、満足したお産が楽しい子育てに繋がります。満足したお産になるよう私たちと一緒に頑張りましょうね。

・赤ちゃんはおっぱい大好き!ママと赤ちゃんをいつも応援しています。

・母乳育児支援を通して、親子、家庭を温かく見守れるように頑張りましょうね。

・赤ちゃんはママと赤ちゃんをいつも応援しています。

2009年の「第18回母乳育児シンポジウム」は札幌市で開催予定です。